

引戸用電動装置

取付説明書

- このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書は、引戸電動装置に関するものです。引戸本体に関する施工については、各引戸に付属されている取付説明書に従い施工するようお願いいたします。

<施工の前に>

- ①正しく施工、組付をしていただく為に、施工前に必ず取付説明書をお読み下さい。
- ②設置場所の確認
 - ①施工場所に寸法的に正しく納まるか確認して下さい。
 - ②主屋の屋根からの雪の落下を直接受けない位置かどうか確認して下さい。
 - ③施工場所の気象条件（風、雪等）に合った商品かどうか確認して下さい。
 - ④強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上等の施工は避けて下さい。
 - ⑤引戸の通り路に障害物がないか確認して下さい。
- ③規格表、梱包明細で必要な部材、部品が揃っているか確認して下さい。
- ④組立、施工途中では
 - ①ボルト、ビスは弊社純正品の規定本数を確実に締付け固定して下さい。
 - ②取付説明書の順序通り組付けて下さい。製品の強度等、性能を低下させる場合が発生します。
 - ③アルミ製品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにして下さい。
- ⑤基礎工事について
 - ①基礎寸法は、取付説明書の通りの寸法として下さい。地盤の種類によっては、倒壊の危険性が発生します。
 - ②基礎コンクリートには、塩分を含む砂、および塩素系のモルタル混和剤を使用しないで下さい。
- ⑥この商品は、過電流保護付き漏電ブレーカーの設置とアース工事（第三種設置工事）が必要です。電線の埋設工事、配線作業に関しては、電気工事店の有資格者に依頼して下さい。
- ⑦製品の改造は絶対に行わないで下さい。
- ⑧施工完了後は
 - ①ボルト、ビス等に緩みがないか確認して下さい。
 - ②施工中の汚れは取り除き、誤ってつけたキズは、補修塗装をして下さい。
- ⑨施工終了後、取付説明書は取扱説明書といっしょに施主様にお渡し下さい。

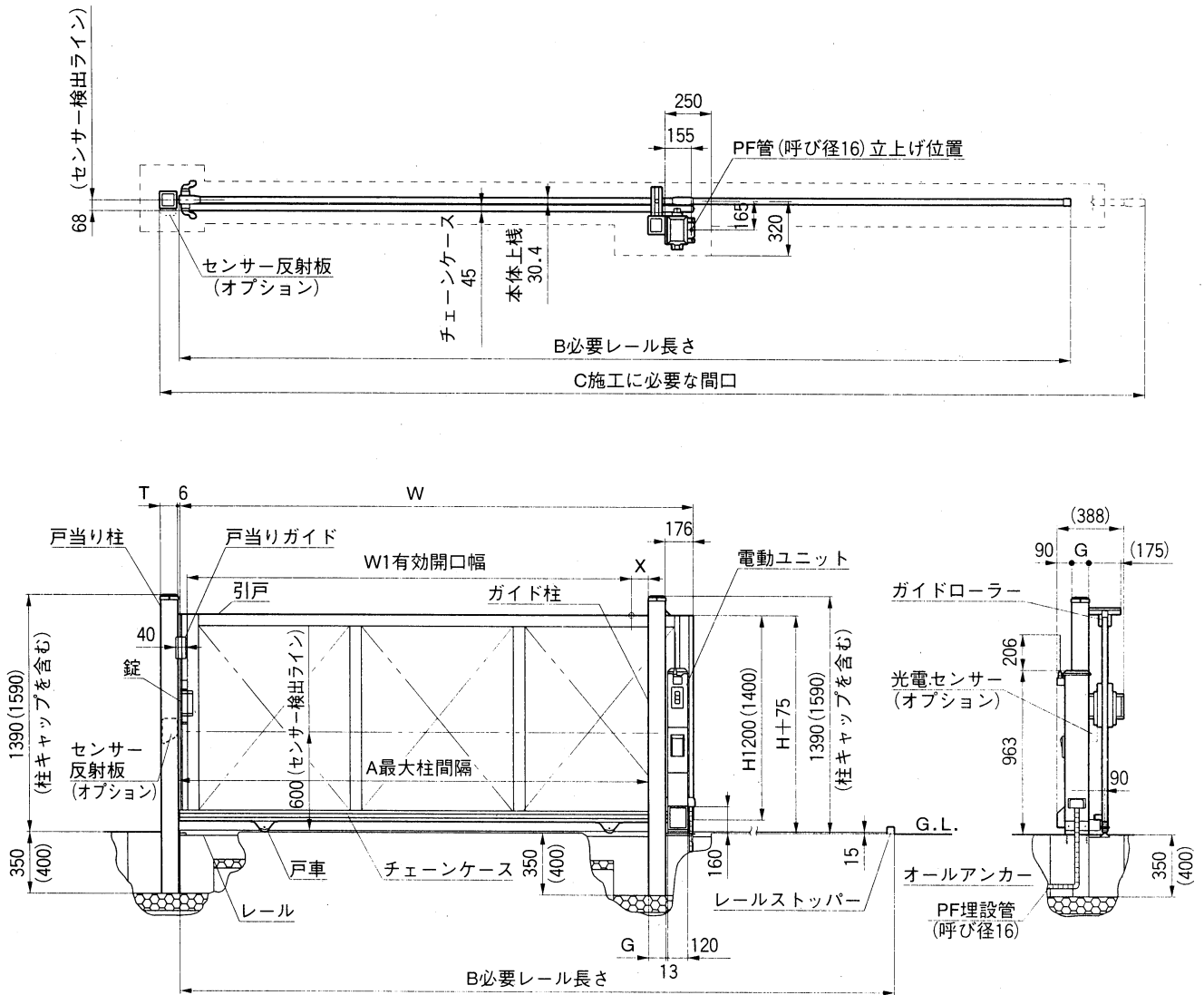
<工事店様へ>

- ①電動装置施工の際、下記工具が必要となりますので予めご用意下さい。
 - ①M8オールアンカー用コンクリートドリル
 - ②φ2.5下孔用電動ドリル

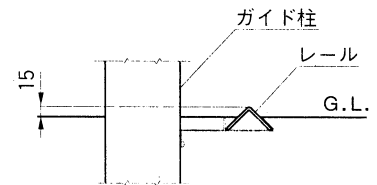
<施主様へ>

- ①使用前に必ず<取扱説明書>をお読み下さい。

1. 各部の名称および基本寸法図



※ 図はシャレオ引戸Aタイプ(左引き)です。



※ 図はレールとG.L.レベルの仕上り寸法です。

	W	W1	A	B	C	T	G	X
シャレオ引戸	3000	2595	2730	5180	5687	75	100	95
シャレオ引戸	3500	3095	3230	6080	6687	75	100	95
ステンシャイン引戸	3000	2595	2730	5312	5716	100	100	95
ステンシャイン引戸	3500	3095	3230	6122	6716	100	100	95
ステンシャイン引戸	4000	3595	3730	7122	7716	100	100	95
アルスライド	3000	2640	2760	5260	5850	70	70	80

2. 梱包明細書

①電動ユニットセット

名 称	員 数
電動ユニット	1
電動ユニット固定ベースプレート	1
電動ユニット固定ブラケット	1
付属ネジ φ4×13テクスネジ	4
フレキカバーセット	1
付属ネジ M4×12ナベタッピンネジ	5
フレキカバー目隠し板	1
付属ネジ φ4×12ナベタッピンネジ	5
脱輪防止金具	1
付属ネジ M4×12ナベタッピンネジ	2
マグネットスイッチセット	2
電動戸当りガイド	1
電動用付属戸当りゴム	1
付属ネジ φ4×13テクスネジ	1
スペーサー	1
リモコン送信器(小箱入り)	1
リモコンアンテナ	1
オールアンカー M8×70(ナット付)	2
取付説明書	1
取扱説明書(保証書付)	1

②チェーンケースセット

名 称	員 数
チェーンケース	1
付属ネジ※ φ4×19テクスネジ W30用	14
付属ネジ※ φ4×19テクスネジ W35用	16
付属ネジ※ φ4×19テクスネジ W40用	18

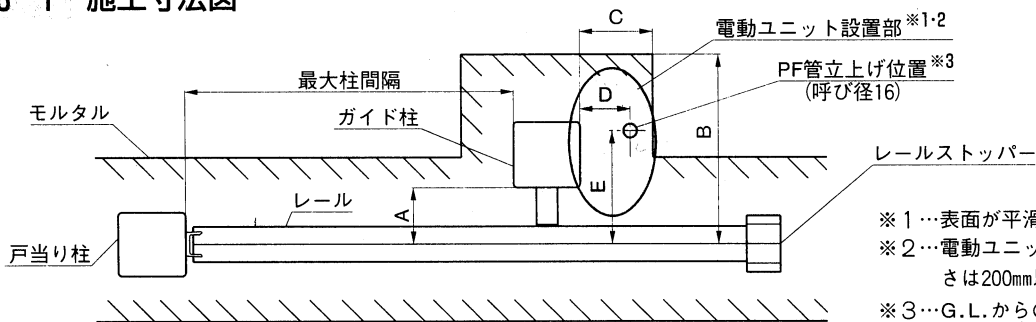
※…サイズにより付属ネジ本数が異なります。

③オプション

名 称
リモコン送信器セット<KYZ73>
リモコン送信器アンテナ延長ケーブルセット(ケーブル長3m)<KYZ81>
光電センサーセット<KUK42>
外部押しボタンスイッチセット<KUK41>
独立ベースセット<KUK40>
過電流保護付漏電ブレーカー(BJS1521)<KNF76>
アース棒(WV4030)<KNF77>

3. 基礎施工寸法と施工例

3-1 施工寸法図



- ※1…表面が平滑で水平レベルが出ている事
- ※2…電動ユニット設置部の基礎モルタル深さは200mm以上必要です。
- ※3…G.L.からの立上げ230mm以上必要です。

	最大柱間隔	A	B	C	D	E
シャレオ引戸 W3000	2730	90	320	250	155	165
シャレオ引戸 W3500	3230	90	320	250	155	165
ステンシャイン引戸 W3000	2730	90	320	250	155	165
ステンシャイン引戸 W3500	3230	90	320	250	155	165
ステンシャイン引戸 W4000	3730	90	320	250	155	165
アルスライド W3000	2760	73	300	250	155	165
公差	以内	±5	以上	以上	± ²⁰ ₀	±20

<注 意>

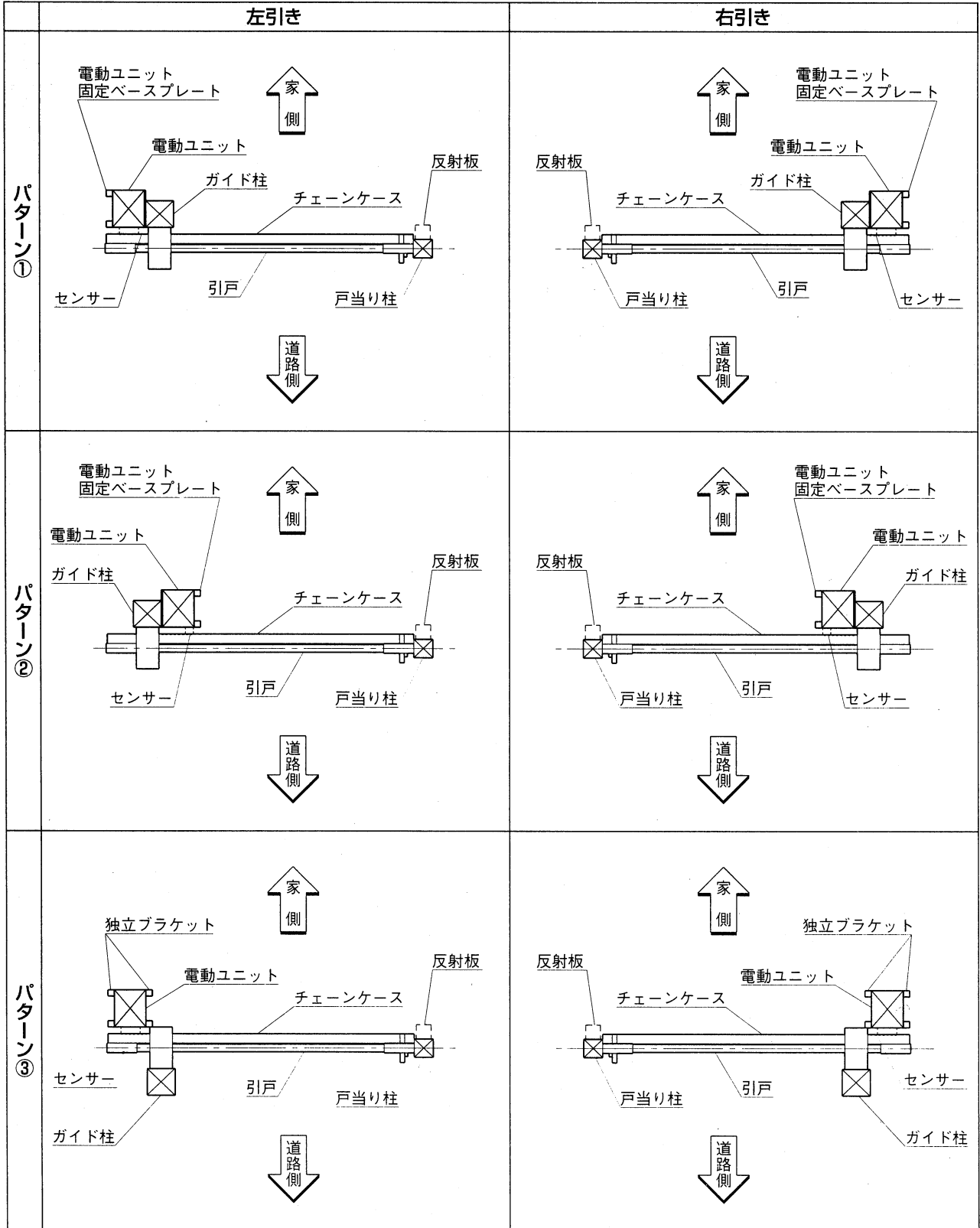
- 上記寸法で施工されていない場合は、電動装置の施工方法が上図とは異なります。4ページの「3-2 施工パターン」を参照して下さい。
- 最大柱間隔については、必ず上記寸法以内で施工されているか確認して下さい。

3.つづき

■施工パターン表に従い施工パターンを確認して下さい。

3-2 施工パターン

施工パターン表



(1) パターン①とは…

3ページの「3-1 施工寸法図」の施工パターンです。左引きか右引きかを確認して次項の作業を行なって下さい。

(2) パターン②とは…

3ページの「3-1 施工寸法図」の「最大柱間隔が基準より広い」現場の施工パターンです。

<注意>

- 有効開口幅が電動ユニットの為に減少しますので注意して下さい。
- 電動ユニットのブラケット類の取付けは、左右が逆転します。

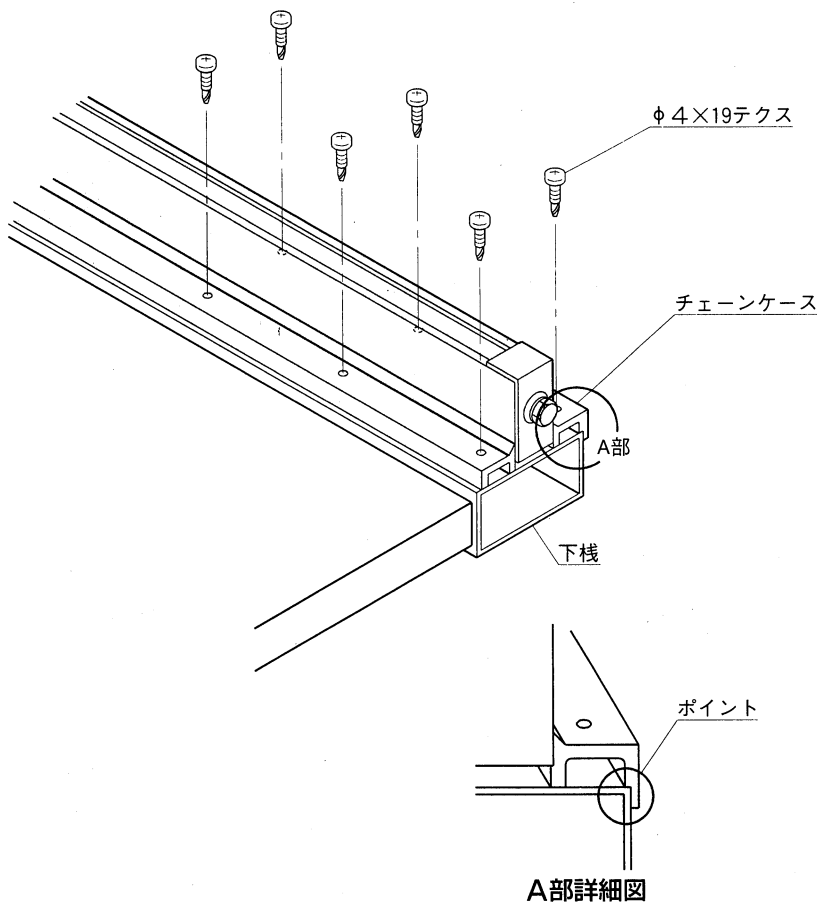
(3) パターン③とは…

ガイド柱が道路側にある現場、ガイド柱と電動ユニットを別の場所に施工しなければいけない現場の施工パターンです。この場合、オプションで設定されている「独立仕様ブラケット」が必要となります。電動ユニットを任意の位置に取付けられるのが特徴です。

<注意>

- パターン③の独立仕様ブラケット(オプション)の施工方法が一部異なる点があります。
- 電動ユニットの固定に関しては18~19ページを参照して下さい。

4. チェーンケースの取付け



❶ 電動装置を取付ける面(通常家側)が上になるよう引戸を横にします。

<注意>

- 引戸にキズがつかぬよう十分注意して下さい。

❷ チェーンケースをA部詳細図のポイントに従いセットします。

<注意>

- 引戸下棧底面にチェーンケースの突起部をセットし、ズレないように注意して下さい。
- 引戸下棧両端部(前框、後框)よりチェーンケースが飛び出さないようにして下さい。

❸ チェーンケースの孔に従い下棧にテクスネジ用「下孔φ2.5」をあけます。

❹ φ4×19テクスネジを⊕ドライバーを使用し取付けます。

<注意>

- 必ず「手締め」で取付けて下さい。電動ドライバーを使用すると、ネジ孔が破損し取付けができなくなります。

5. 錠および戸車の取付け

5-1 シャレオ引戸の場合

■シャレオ引戸錠電動タイプの取付説明書に従い、電動専用錠の取付けを行なって下さい。

<注意>

●すでに手動用シャレオ引戸錠を取付け済みのお客様は、電動専用錠に交換して下さい。

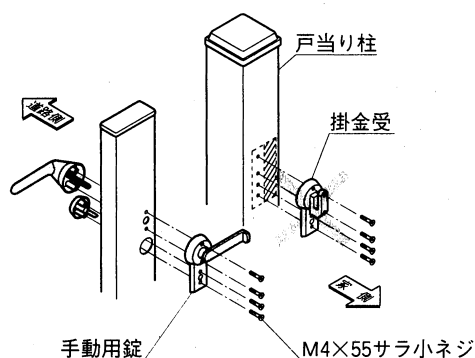
5-2 アルスライドの場合

■アルスライド錠電動タイプの取付説明書に従い、電動専用錠および戸車の取付けを行なって下さい。

<注意>

●すでに手動用アルスライド錠を取付け済みのお客様は、電動専用錠に交換して下さい。

5-3 ステンシャイン引戸の場合



■左図のように手動用錠を取付けます。

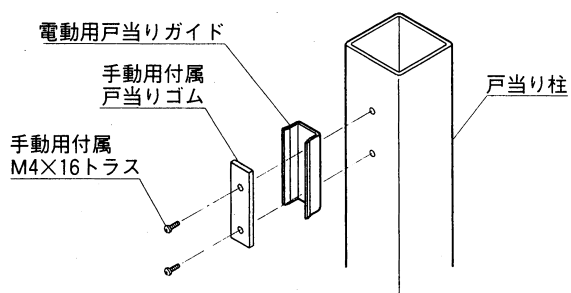
<注意>

- ステンシャイン引戸には、電動専用錠の設定がありません。電動で使用する際は、戸当り柱に付く掛金受を必ず取りはずして下さい。
- ステンシャイン引戸には、落とし棒が標準設定されています。電動で使用する際は、落とし棒を必ず取りはずして下さい。

6. 戸当りガイドおよびゴムの取付け

■手動用戸当りガイドは取りはずし、電動ユニットセット梱包に入っている電動用戸当りガイドを必ず取付けて下さい。

6-1 シャレオ引戸・アルスライドの場合



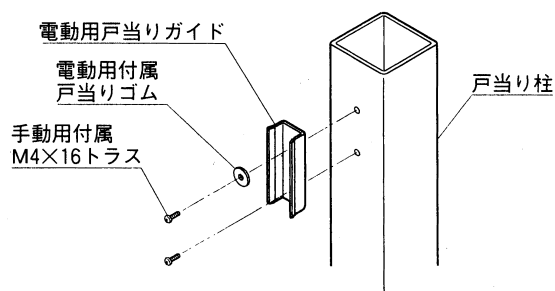
■もともと取付いている戸当りガイドと手動用戸当りゴムを戸当り柱からはずします。

■戸当り柱に電動用戸当りガイドと手動用戸当りゴムを、M4x16トラスネジで取付けます。

<注意>

- シャレオ引戸、アルスライドに関しては、手動用ガイドに付属されている戸当りゴムを使用する事をお勧めします。

6-2 ステンシャイン引戸の場合



■もともと取付いている戸当りガイドと手動用戸当りゴムを戸当り柱からはずします。

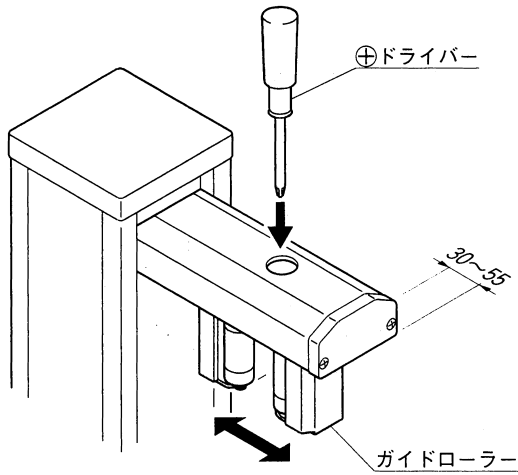
■戸当り柱に電動用戸当りガイドと電動用戸当りゴムを、M4x16トラスネジで取付けます。

<注意>

- ステンシャイン引戸に関しては、電動ユニットセット梱包に入っている戸当りゴムを使用して下さい。

7. 引戸の取付けおよび調整

■引戸をレールにセットし、引戸にガタつきがなくなるようにガイドローラーの調整をして下さい。



※ 図はシャレオ引戸です。

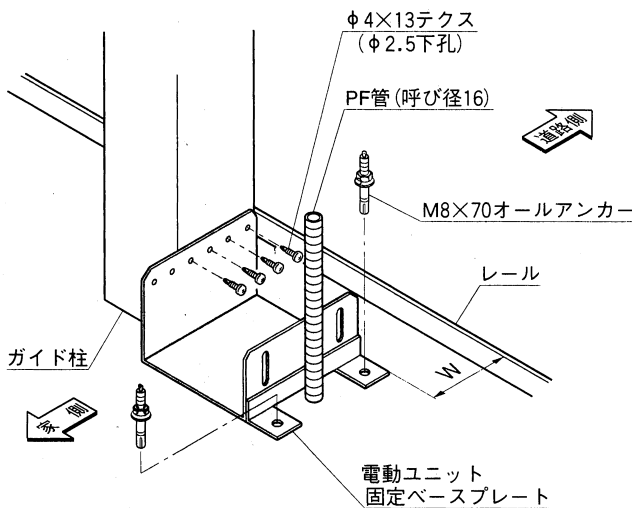
1 ブラケットのメクラ蓋を外して⊕ドライバーで内部のネジをゆるめることによって、ガイドローラーの幅調整ができます。調整後は、ネジを締めて下さい。

<注意>

- 必ず手で全開、全閉動作をさせ、戸当りガイド、レールストッパー等の位置や、引戸の動きに異常がない事を確認して下さい。異常がある場合は、必ず修正して下さい。電動での動作に影響を及ぼします。

8. 電動ユニット固定ベースプレートの取付け

■独立仕様ブラケット(オプション)をご使用の場合は、18ページの「18.独立仕様ブラケットの取付け」を参照して下さい。



※ 図は左引きパターン①です。

機種名	寸法	W
シャレオ引戸		90mm
ステンシャイン引戸		90mm
アルスライド1型		92mm
旧ステンスライド		95mm

1 電動ユニット固定ベースプレートを図のようにセットします。

<注意>

- レールのセンターから電動ユニット固定ベースプレートまでの長さは、各機種によって寸法が異なりますので下記の寸法表を参照して下さい。
 - 電動ユニット固定ベースプレートがレールと平行になっているか確認して下さい。
 - シャレオ引戸とステンシャイン引戸は、ガイド柱と電動ユニット固定ベースプレートの端部が一致するようになっています。
- 2 ガイド柱にφ2.5の下孔を4ヶ所あけます。
 - 3 φ4×13テクスネジ4本で電動ユニット固定ベースプレートをガイド柱に固定します。
 - 4 M8×70オールアンカー用下孔を、2ヶ所コンクリートドリルであけます。
 - 5 M8×70オールアンカー2本で電動ユニット固定ベースプレートとモルタルを固定します。

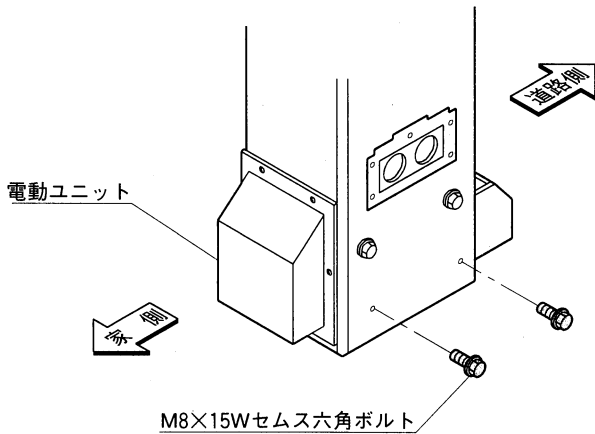
<注意>

- オールアンカーで固定しないと、電動ユニットが動いてしまい危険です。
- 電動ユニット固定ベースプレートがガタつかないか確認して下さい。

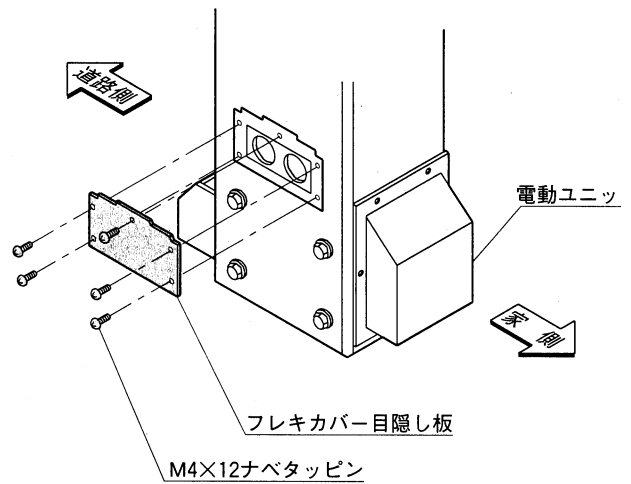
9. 電動ユニット施工前の準備

■独立仕様ブラケット(オプション)をご使用の場合は、18ページの「19. 電動ユニット施工前の準備」を参照
電動ユニットは左引き、右引きによって、固定ブラケット、フレキカバー目隠し板の取付け場所が異なり

9-1 左引きの場合

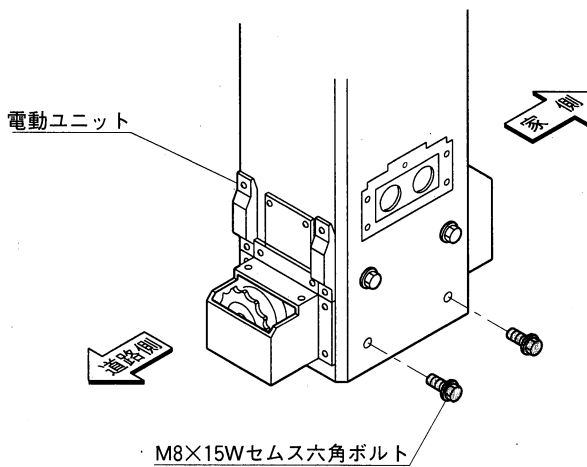


A図

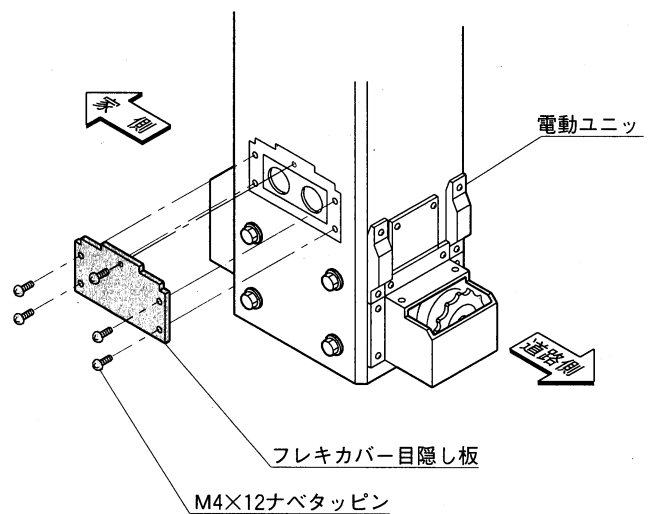


B図

9-2 右引きの場合

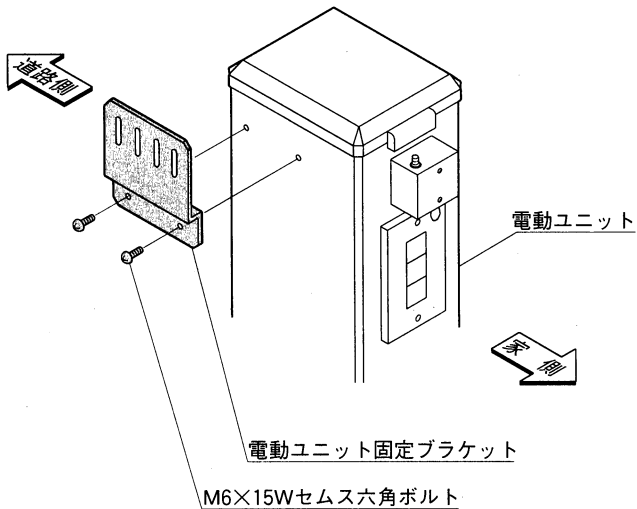


D図



E図

して下さい。
 ますので、必ず左右を確認の上、前準備を行なって下さい。



C図

※ 図は左引きパターン①です。

- 1 電動ユニットを家側から見て右側面下部のM8×15Wセムス六角ボルト2本はずします。
 (A図参照)

<注意>

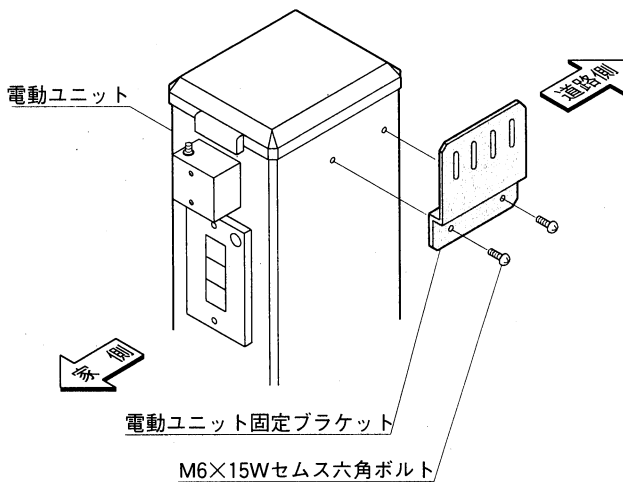
- 取りはずしたボルトは、電動ユニットを電動ユニット固定ベースプレートに取付ける時に使用しますので、保管して下さい。

- 2 電動ユニットを家側から見て左側面下部にフレキカバー目隠し板をM4×12ナベタッピンネジ5本で取付けます。
 (B図参照)

- 3 電動ユニットを家側から見て左側面上部のM6×15Wセムス六角ボルトを2本はずし、電動ユニット固定ブラケットを取付けます。
 (C図参照)

<注意>

- 左引きパターン②の場合は、「9-2 右引きの場合」を参照して下さい。
- 指示していないネジ、ボルト等は、絶対にはずさないようにして下さい。



F図

※ 図は右引きパターン①です。

- 1 電動ユニットを道路側から見て右側面下部のM8×15Wセムス六角ボルト2本はずします。
 (D図参照)

<注意>

- 取りはずしたボルトは、電動ユニットを電動ユニット固定ベースプレートに取付ける時に使用しますので、保管して下さい。

- 2 電動ユニットを道路側から見て左側面下部にフレキカバー目隠し板をM4×12ナベタッピンネジ5本で取付けます。
 (E図参照)

- 3 電動ユニットを家側から見て右側面上部のM6×15Wセムス六角ボルトを2本はずし、電動ユニット固定ブラケットを取付けます。
 (F図参照)

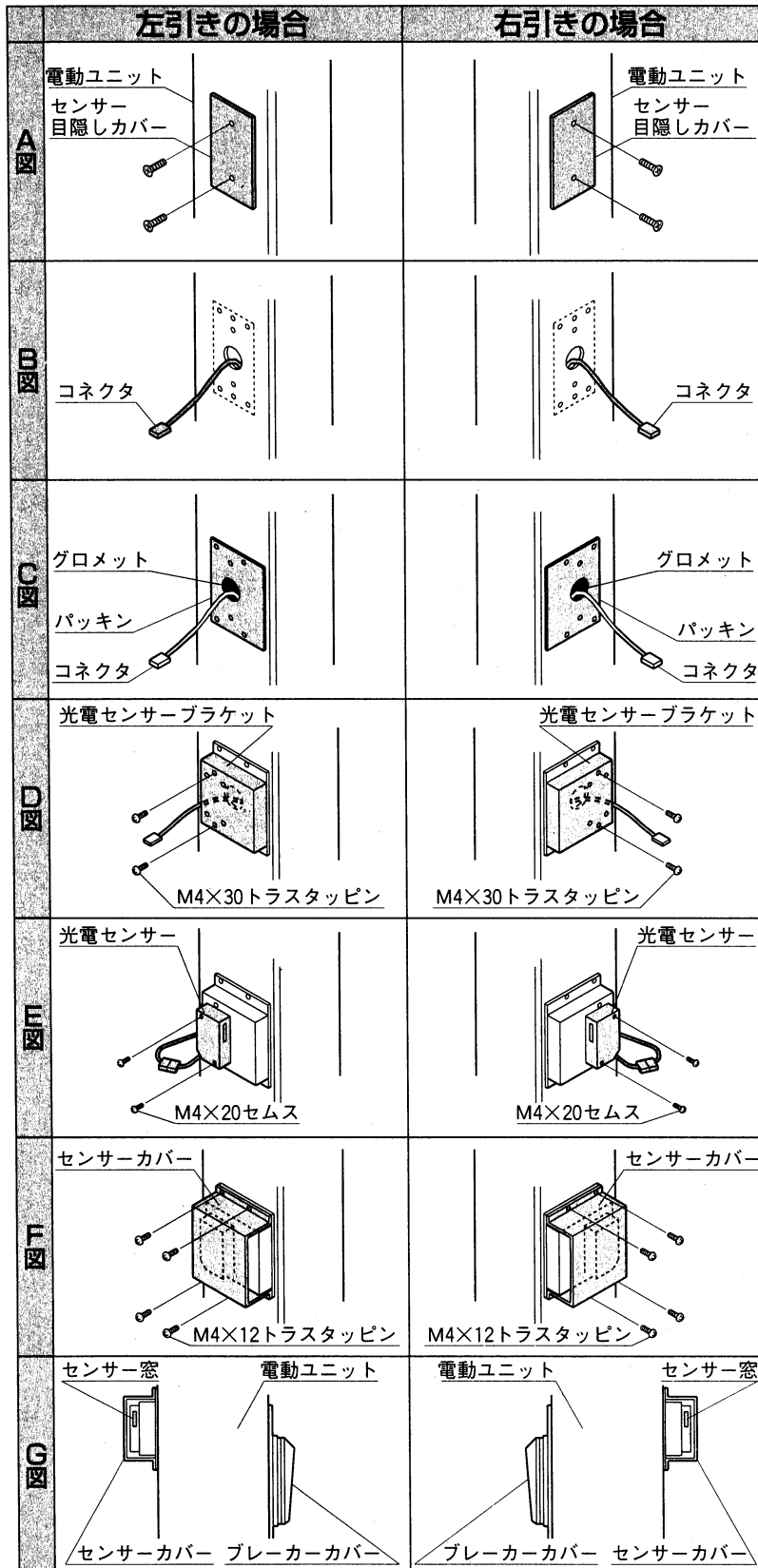
<注意>

- 右引きパターン②の場合は、「9-1 左引きの場合」を参照して下さい。
- 指示していないネジ、ボルト等は、絶対にはずさないようにして下さい。

9.つづき

■オプションで光電センサーセットを注文いただいたお客様のみ下記の手順で取付けて下さい。
左引きと右引きで取付ける位置が違いますので注意して下さい。

9-3 光電センサーセットの取付け(オプション)



❶電動ユニットの押ボタンスイッチ(正面)の反対面にあるセンサー目隠しカバーを取りはずします。
(A図参照)

❷コネクタを固定しているインシュロックタイを切断し、外に引き出します。
(B図参照)

❸パッキンの両面テープをはがしコネクタを通します。
(C図参照)

<注意>

●孔位置がズレないように注意して下さい。

❹光電センサーの配線に通してあるグロメットをコネクタに通し取付けます。
(C図参照)

❺光電センサーブラケットをM4×30トラスタッピン2本でパッキンに取付けます。
(D図参照)

❻光電センサーをM4×20セムス2本で光電センサーブラケットに取付けます。
(E図参照)

❼光電センサーのコネクタと電動ユニットから出ているコネクタを接続します。
(E図参照)

❽センサーカバーをM4×12トラスタッピン4本でパッキンに取付けます。
(F図参照)

<注意>

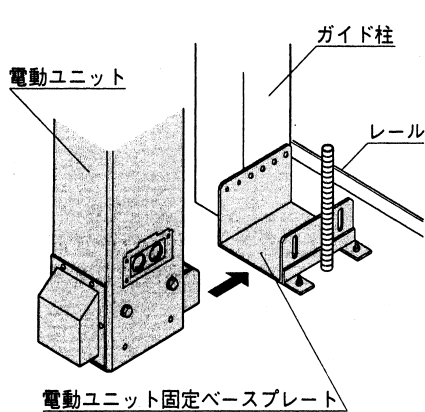
●全ての作業が終了したら、センサーカバーの口が開いている部分を見て、センサー窓がG図のように見えているか確認して下さい。

反射板については、戸当り柱への施工になりますので後の項目で説明します。

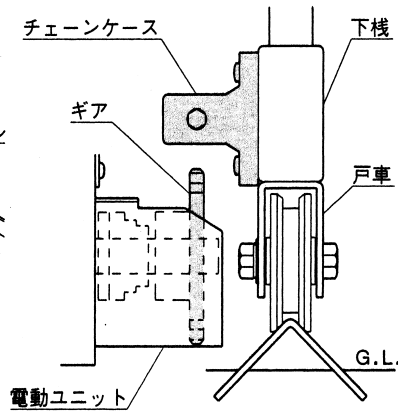
10. 電動ユニットの取付け

■独立仕様ブラケット(オプション)をご使用の場合は、19ページの「20. 電動ユニットの取付け」を参照して下さい。

10-1 電動ユニットの位置決め



A図



B図

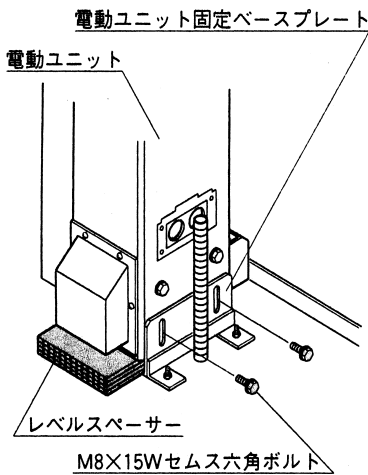
※ 図は左引きパターン①です。

- 1 前準備が終了した電動ユニットを電動ユニット固定ベースプレートにセットします。
(A図参照)

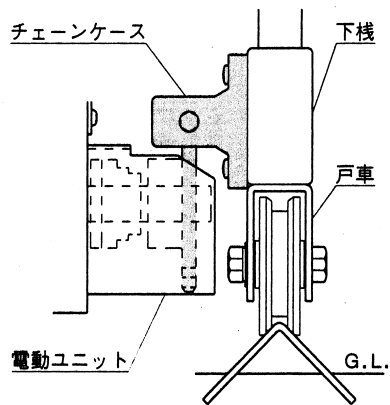
<注意>

- 引戸のチェーンケースと電動ユニットのギアの位置がB図のようになっているか確認して下さい。

10-2 電動ユニットの固定



A図



B図

- 1 レベル Spacer を電動ユニットと電動ユニット固定ベースプレートの間に入し、電動ユニットのギアが引戸のチェーンケースの中に入るようにセットします。
(A図, B図参照)

<注意>

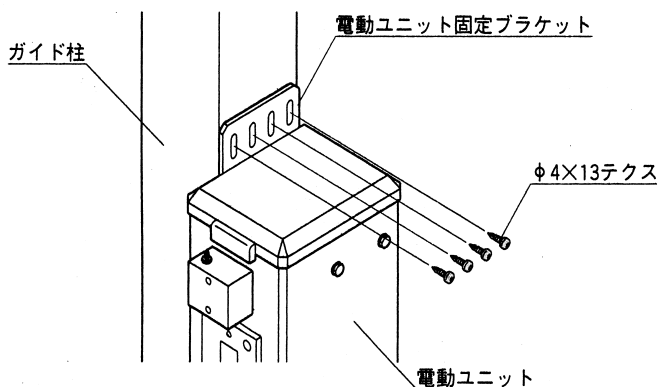
- 引戸のチェーンケースと電動ユニットのギアの位置がB図のようになっているか確認して下さい。

- 2 M8×15Wセムス六角ボルト2本で電動ユニットを電動ユニット固定ベースプレートに固定します。
(A図参照)

- 3 レベル Spacer を抜きます。

- 4 ガイド柱と電動ユニット固定ブラケットの位置をあわせ、まずφ2.5下孔をあけます。
(長孔のセンターが目安です。)

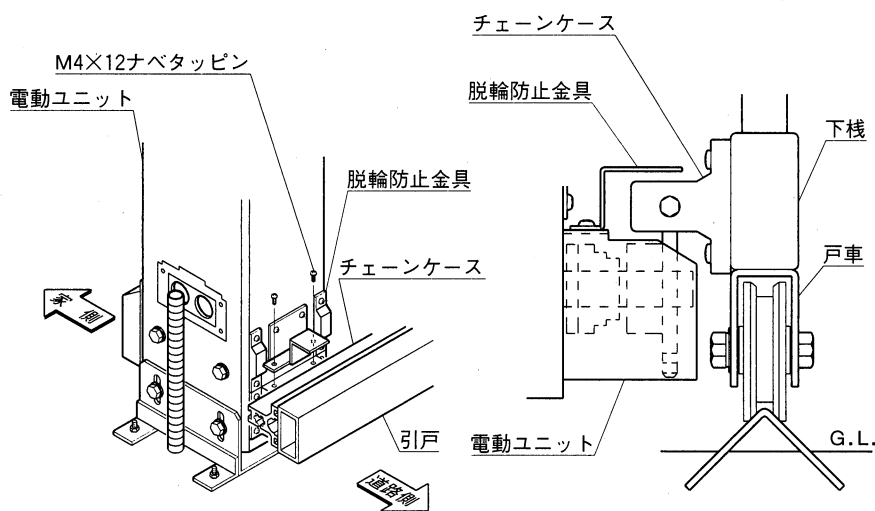
- 5 φ4×13テクスネジ4本でガイド柱と電動ユニット固定ブラケットを固定します。
(C図参照)



C図

※ 図は左引きパターン①です。

11. 脱輪防止金具の取付け



A図

B図

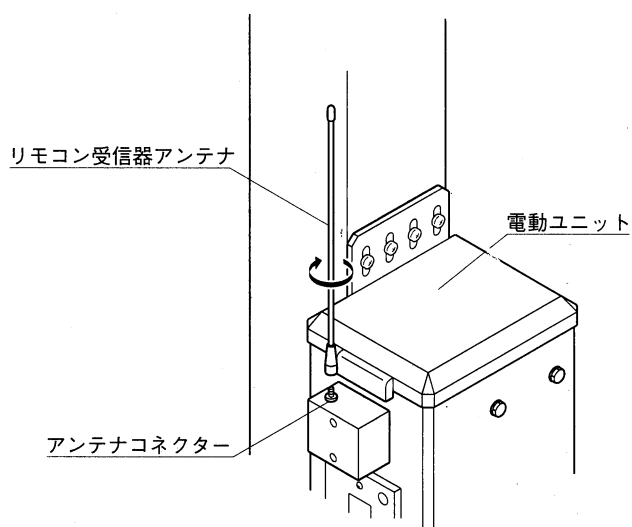
※ 図は左引きパターン①です。

■脱輪防止金具を電動ユニットのギアカバー部にM4×12ナベタップピンネジ2本で取付けます。(A図参照)

<注意>

●脱輪防止金具とチェーンケースの間にクリアランスがあるか確認して下さい。(B図参照)

12. リモコン受信器アンテナの取付け



※ 図は左引きパターン①です。

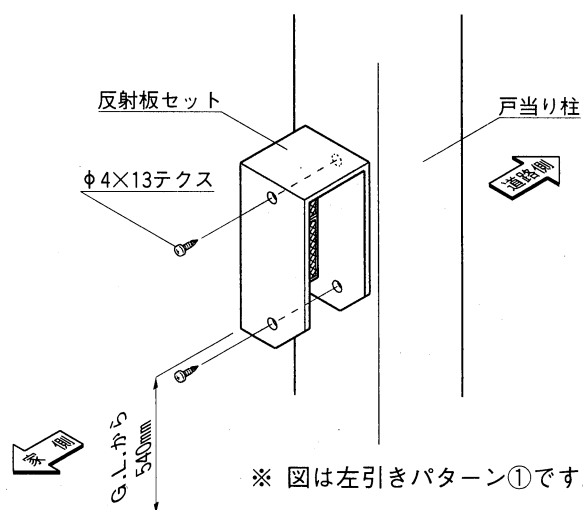
■リモコン受信器アンテナを電動ユニット上部にあるアンテナコネクターに取付けます。

<注意>

●受信感度に影響が出ますのでしっかり根元まで固定して下さい。

13. 光電センサー反射板の取付け(オプション)

■オプションで光電センサーセットを注文いただいたお客様のみです。



※ 図は左引きパターン①です。

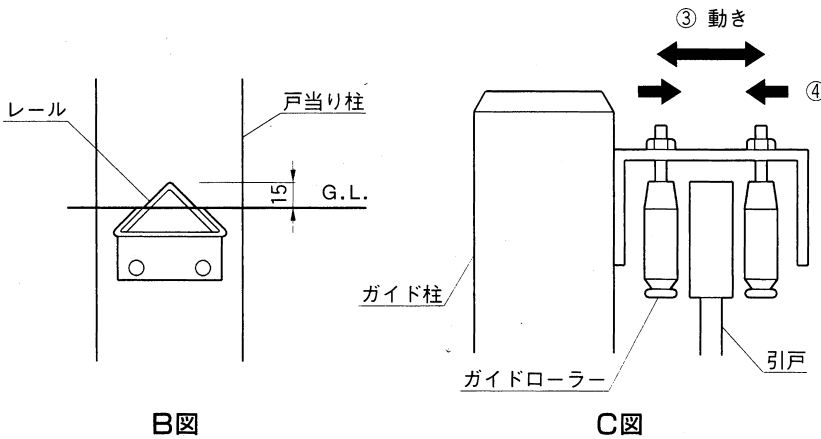
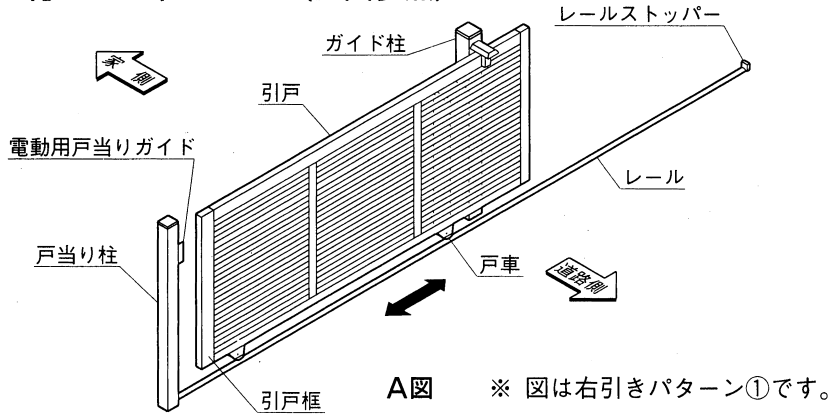
■G.L.から反射板セットの下端までが540mmの高さにφ4×13テクスネジ2本(下孔φ2.5)で戸当り柱(通常家側)に固定します。

<注意>

●反射板の向きは、必ず電動ユニット側に向くようにして下さい。

14. 施工の確認(第1段階)

■「13. 光電センサー反射板の取付け」までの作業が終了したら、必ず手動にて全閉、全開動作確認を行なって下さい。(A図参照)



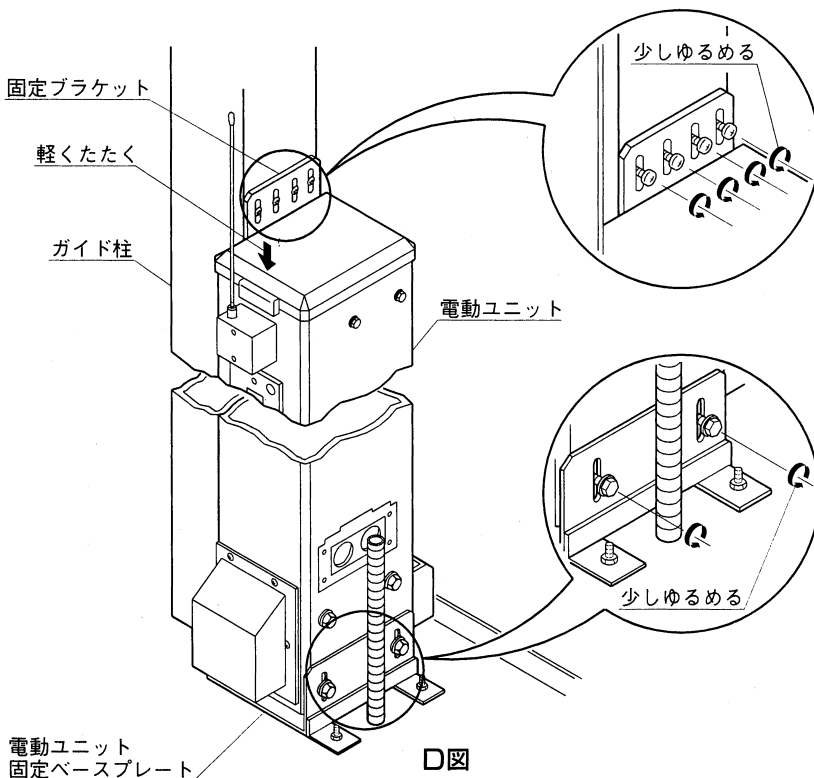
<確認>

- 1 引戸がスムーズに動きますか。
- 2 レールストッパーに当たるまで引戸を動かした時、錠とガイド柱が当たっていませんか。また、引き残し寸法に間違いはありませんか。
- 3 電動用戸当りガイドと引戸框が片当りしていませんか。きちんとセンターに入っていますか。
- 4 ガイドローラーと引戸上棧に極端な遊び、ガタつきがありませんか。
- 5 チェーンケースからガタガタと異音、振動が出ていませんか。

<対応処置>

- 1 レールにモルタル、土、砂が付いたら取り除いて下さい。戸車がモルタルの上を走っていたら施工間違いです。モルタルを削り、G.L.からレール山部まで15mm以上出るようにして下さい。(B図参照)
- 2 レールストッパーを施工し直して下さい。
- 3 引戸のセンターが出ていません。ガイドローラーを左右に動かし引戸のセンター調整をして下さい。(C図参照、③矢印方向)
- 4 ガイドローラー間の幅が広すぎます。引戸上棧に軽く接触する程度まで縮めて下さい。(C図参照、④矢印方向)
- 5 チェーンケースと電動ユニットのギアのかみ合いがよくありません。1~3mm程度上下に動かし、異音、振動がなくなる場所を見つけセットしなおして下さい。(D図参照)

※上記確認項目で異常が無かった場合は、次項へ進んで下さい。



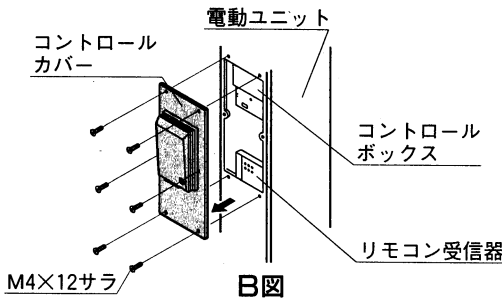
※ 図は左引きパターン①です。

15. 配線

■「15.配線」以降の施工に関しては、電気工事の有資格者に作業を依頼して下さい。

15-1 電源の配線

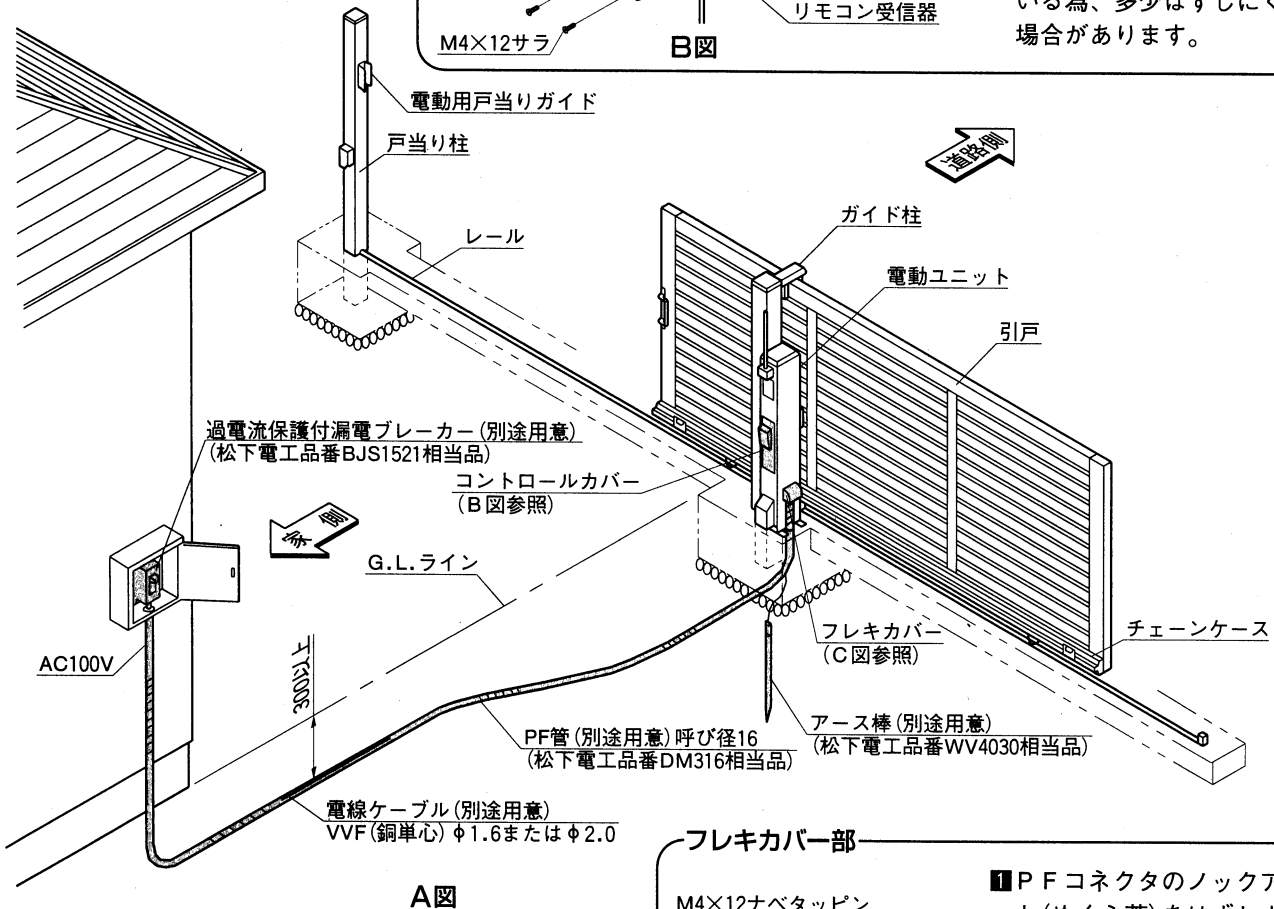
コントロールカバー部



1 コントロールカバーのネジ M4×12サラ6本をはずし、コントロールカバーの下側を手前に引っ張るようにしてははずします。

<注意>

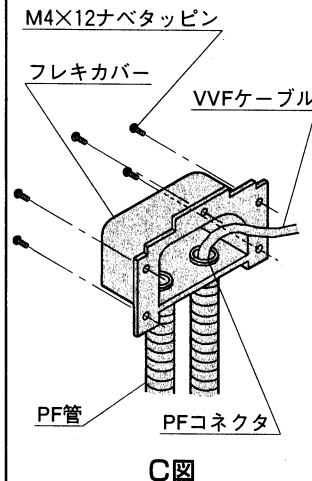
- シール用ブチレンが付いている為、多少はずしにくい場合があります。



<注意>

- 施工には、別途過電流保護付漏電ブレーカーおよび埋設用PF管 (呼び径16)、電源ケーブル、アース棒が必要となりますので、ご用意して下さい。
- 電源配線には必ず、過電流保護付漏電ブレーカーの設置とアース工事 (第三種接地工事) を行なって下さい。

フレキカバー部

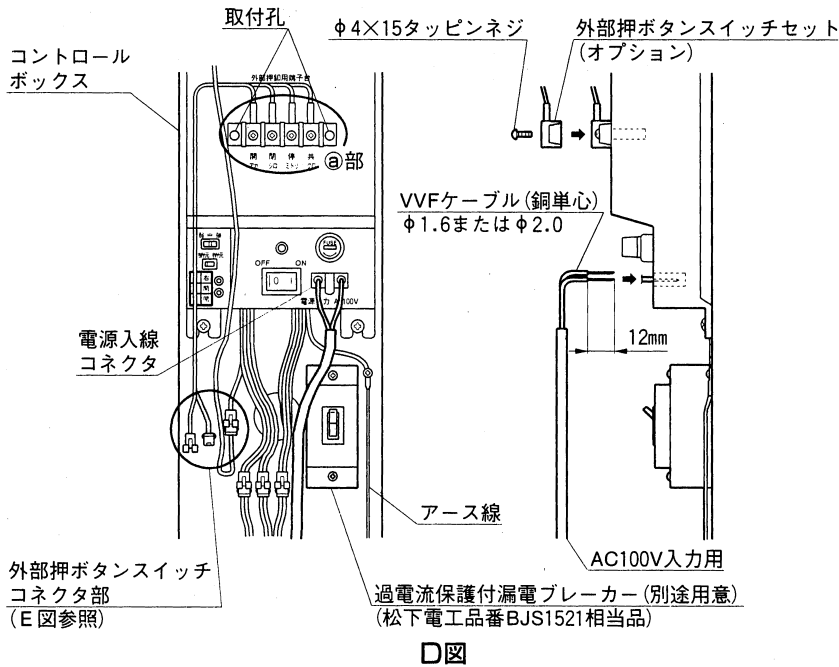


- 1 PFコネクタのノックアウト (めくら蓋) をはずします。
- 2 AC100V用の電源ケーブル (VVF) をフレキカバーに通します。
- 3 同様にオプションの外部押ボタンスイッチを使用する場合もキャプタイヤケーブルをフレキカバーに通してから配線作業を行ないます。

<注意>

- 外部押ボタンスイッチ用ケーブルは4芯 (0.5mm) キャプタイヤケーブルをご使用下さい。

15-2 コントロールボックスの配線



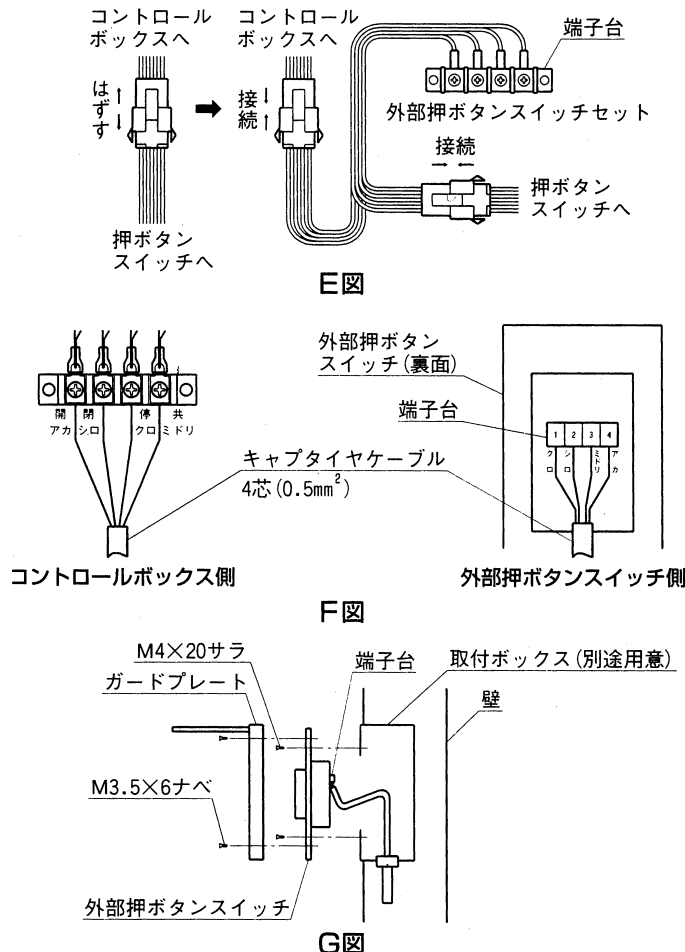
D図

- 1 14ページB図のコントロールカバーをはずします。(コントロールカバーをはずすとD図が見えます。)
- 2 14ページA図と15ページD図を参考に過電流保護付漏電ブレーカーを家側または、電動ユニット内部に取付けます。
- 3 14ページA図と15ページD図を参考に第三種接地アース工事を行いません。
- 4 14ページC図で通したAC100V入力用VVFケーブルを、15ページD図のようにコントロールボックスの電源入線コネクタに奥まで差し込みます。(銅単心部は12mm必要です。)
- 5 配線作業が終了したら14ページB図のコントロールカバーを取付けます。

<注意>

- 外部押ボタンスイッチをお求め頂いたお客様は、コントロールボックスカバーを取付ける前に、「15-3 外部押ボタンスイッチの配線」を行なって下さい。

15-3 外部押ボタンスイッチの配線(オプション)



E図

F図

G図

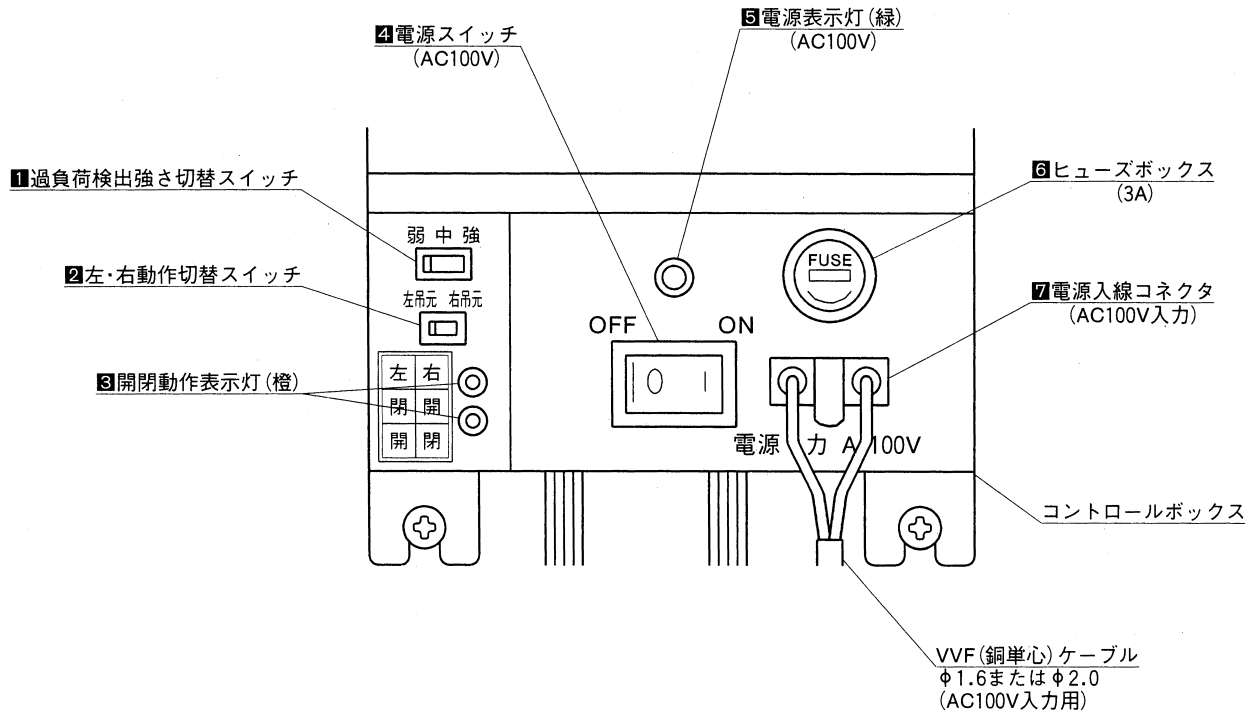
- 1 外部押ボタンスイッチセットの端子台を、D図のコントロールボックス@部に、φ4×15タッピンネジ2本で取付けます。
- 2 外部押ボタンスイッチのコネクタを差し替えます。(E図参照)
- 3 取付ボックス(市販スイッチボックス1ヶ用)を用意して下さい。(別途用意)
 - 埋込タイプ(松下電工品番DM37116相当品)
 - 露出タイプ(松下電工品番DM38116相当品)
- 4 コントロールボックス側の端子台にF図のようにキャプタイヤケーブル(4芯)を接続します。
- 5 外部押ボタンスイッチ側の端子台にF図のようにキャプタイヤケーブル(4芯)を接続します。

<注意>

- 小型マイナスインスライバにて隣接端子と接触しないように確実に接続して下さい。
- 6 外部押ボタンスイッチを取付ボックス(別途用意)にM4×20サラで固定します。(G図参照)
 - 7 ガードプレートを外部押ボタンスイッチにM3.5×6ナベで取付けます。(G図参照)
 - 8 ガイドプレート外周をシーリングします。
 - 9 配線作業が終了したら、14ページのB図のコントロールカバーを取付けます。

16. コントロールボックスの名称および働き

■「15.配線」の作業が終了した事を確認して下さい。



1 過負荷検出強さ切替スイッチ

- 引戸が動作中に人や車、障害物等に衝突した時に、大事故を防ぐために設定されている安全装置です。働くと閉動作時には約20cm後退して停止し、開動作時にはその場所で停止します。
- 通常出荷時、スイッチは「弱」に設定してあります。現場状況により「弱」で正常な動作をしない時にだけ、「中」または「強」に切替えて使用して下さい。

2 左・右動作切替スイッチ

- 電動ユニットの左・右動作を切替えるスイッチです。道路側から見て左引きの場合は左吊元に、右引きの場合は右吊元に設定します。通常出荷時には、左吊元に設定されています。右引きでご使用のお客様は必ず、右吊元に切替えて下さい。

3 開閉動作表示灯(橙)

- 電動ユニットが開動作、閉動作時にランプ(橙色)が点灯します。

4 電源スイッチ

- 電動ユニットの主電源を「ON・OFF」させるスイッチです。「OFF」にするとすべてのコントロール機能が停止し、手動式となります。

5 電源表示灯(緑)

- 電源スイッチを「ON」にしてAC100Vがコントロールボックスに供給されるとランプ(緑色)が点灯します。電源スイッチを「OFF」にしたり、家側ブレーカーが「OFF」になりAC100V電源の供給がストップした時には消灯します。

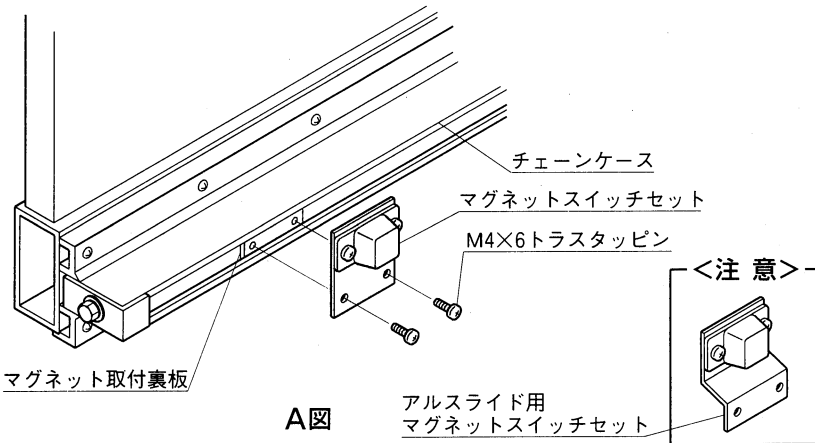
6 ヒューズボックス

- 3Aのヒューズが入っています。非常時、故障時以外は脱着する必要はありません。

7 電源入線コネクタ

- コントロールボックスのAC100V電源入力用コネクタです。ワンタッチで脱着できますが、使用ケーブルはφ1.6またはφ2.0のVVF(銅単心)ケーブル専用となっています。

17. マグネットスイッチの取付け

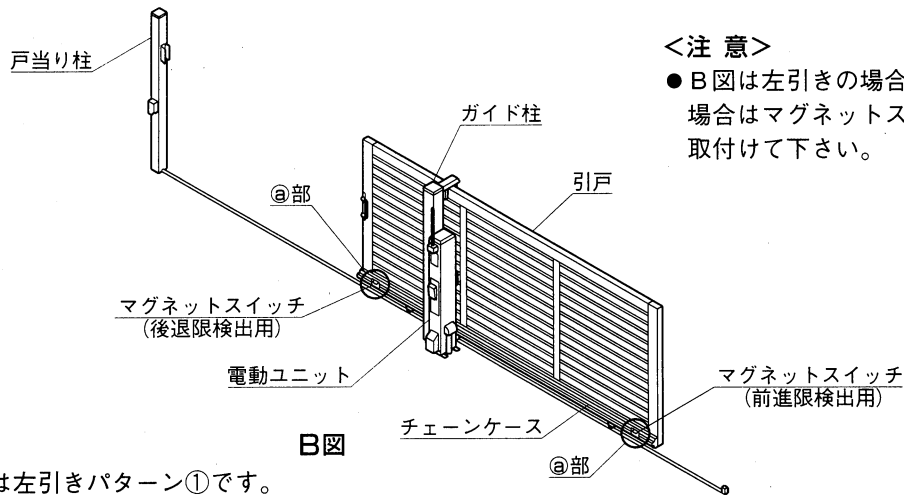


- ❶ チェーンケース両端部(2ヶ所)にセットしてあるマグネット取付裏板のネジ M4×6トラスタッピンネジをはずします。
- ❷ マグネットスイッチセットをA図のように取付けます。(2ヶ所)
- ❸ マグネットスイッチセットは、B図の㊸部が引戸後退限検出用、㊹部が引戸前進限検出用となっています。

<注意>

- アルスライド1型の場合は、左図のブラケットにマグネットを付け替えて使用して下さい。

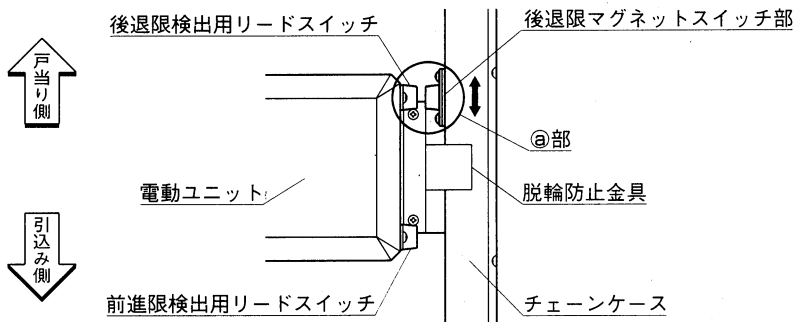
■ここからは、引戸を手動で動かしながら作業して下さい。



<注意>

- B図は左引きの場合ですので右引きの場合はマグネットスイッチを左右逆に取付けて下さい。

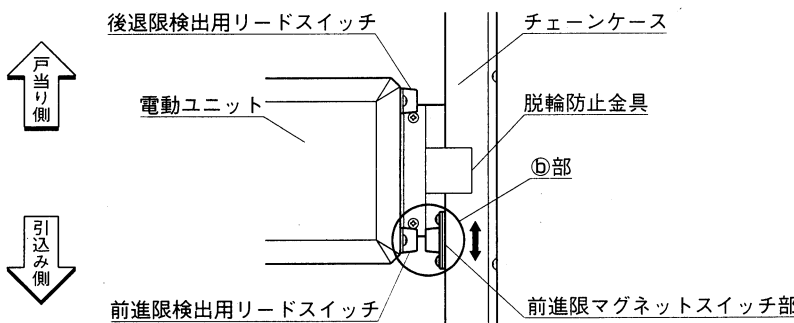
※ 図は左引きパターン①です。



C図

※ 図は左引きパターン①を上から見た図です。

- ❹ 引戸をレールストッパーに当たるまで後退させます。その時、C図の㊸部のようにマグネットスイッチを移動させてセットします。



D図

※ 図は左引きパターン①を上から見た図です。

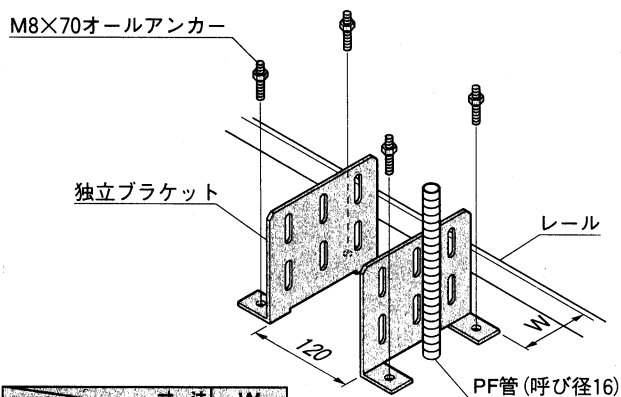
- ❺ 引戸を戸当り柱に当たるまで前進させます。その時、D図の㊹部のようにマグネットスイッチを移動させてセットします。

<注意>

- マグネットスイッチの移動は、M4×8トラスネジをゆるめると可能です。

18. 独立仕様ブラケットの取付け

■独立仕様ブラケット(オプション)をご使用のお客様のみです。



機種名	寸法	W
シャレオ引戸		90mm
ステンシャイン引戸		90mm
アルスライド1型		92mm
旧ステンスライド		95mm

※ 図は左引きパターン③です。

①独立ブラケットを図のようにセットします。

<注意>

●レールのセンターから電動ユニット固定ベースプレートまでの長さは、各機種によって寸法が異なりますので下記の寸法表を参照して下さい。

●独立ブラケットがレールと平行になっているか確認して下さい。

●独立ブラケット間は120mmあけて下さい。

②M8x70オールアンカー用下孔を、4ヶ所コンクリートドリルであけます。

③M8x70オールアンカー4本で独立ブラケットとモルタルを固定します。

<注意>

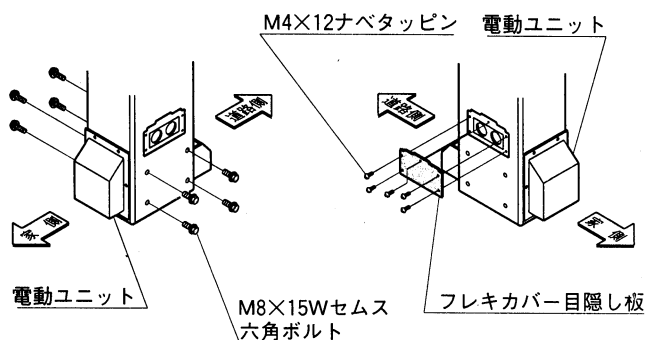
●オールアンカーで固定しないと、電動ユニットが動いてしまい危険です。

●独立ブラケットがガタつかないか確認して下さい。

19. 電動ユニット施工前の準備

■独立仕様ブラケット(オプション)をご使用のお客様のみです。電動ユニットは左引き、右引きによって、固定ブラケット、フレキカバー目隠し板の取付け場所が異なりますので、必ず左右を確認の上、前準備を行なって下さい。

19-1 左引きの場合



①電動ユニットを道路側から見て両側面下部のM8x15Wセムス六角ボルト8本はずします。

<注意>

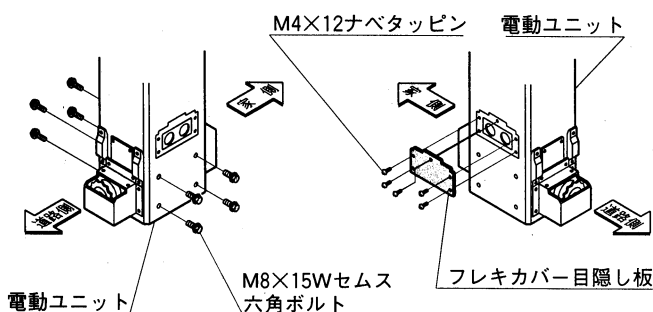
●取りはずしたボルトは、電動ユニットを独立ブラケットに取付ける時に使用しますので、保管して下さい。

②電動ユニットを家側から見て左側面下部にフレキカバー目隠し板をM4x12ナベタッピンネジ5本で取付けます。

<注意>

●指示していないネジ、ボルト等は、絶対にはずさないようにして下さい。

19-2 右引きの場合



①電動ユニットを道路側から見て両側面下部のM8x15Wセムス六角ボルト8本はずします。

<注意>

●取りはずしたボルトは、電動ユニットを独立ブラケットに取付ける時に使用しますので、保管して下さい。

②電動ユニットを道路側から見て左側面下部にフレキカバー目隠し板をM4x12ナベタッピンネジ5本で取付けます。

<注意>

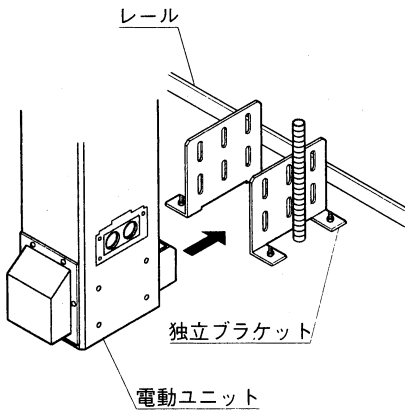
●指示していないネジ、ボルト等は、絶対にはずさないようにして下さい。

■光電センサーセット(オプション)をご使用のお客様は、10ページの「9-3 光電センサーセットの取付け」を参照し、取付け作業を行なって下さい。

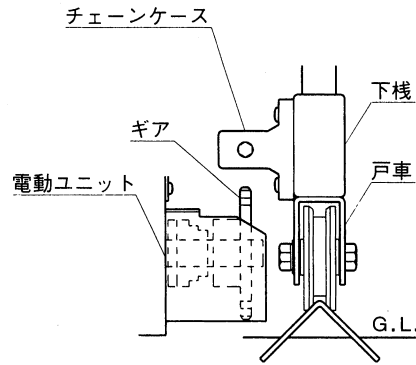
20. 電動ユニットの取付け

■独立仕様ブラケット(オプション)をご使用のお客様のみです。

20-1 電動ユニットの位置決め



A図



B図

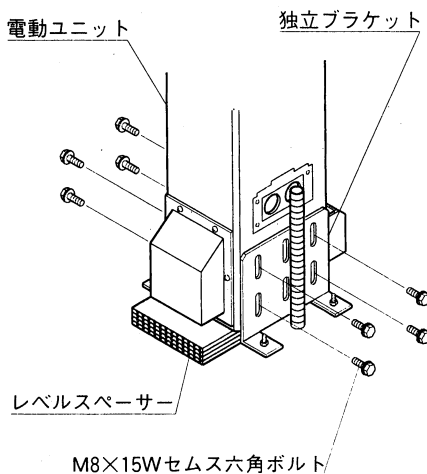
※ 図は左引きパターン③です。

■前準備が終了した電動ユニットを独立ブラケットにセットします。(A図参照)

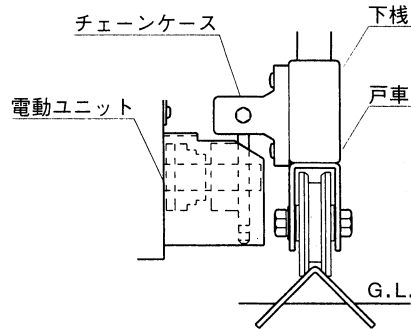
<注意>

●引戸のチェーンケースと電動ユニットのギアの位置がB図のようになっているか確認して下さい。

20-2 電動ユニットの固定



A図



B図

※ 図は左引きパターン③です。

■レベルスペーサーを電動ユニットとG.L.モルタルの間に挿入し、電動ユニットのギアが引戸のチェーンケースの中に入るようにセットします。(A図、B図参照)

<注意>

●引戸のチェーンケースと電動ユニットのギアの位置がB図のようになっているか確認して下さい。

■M8×15Wセムス六角ボルト8本で電動ユニットを独立ブラケットに固定します。(A図参照)

<注意>

●必ず電動ユニットのレベルを確認して下さい。電動ユニットが傾いていると、動作不良が生じる可能性がありますのでご注意ください。

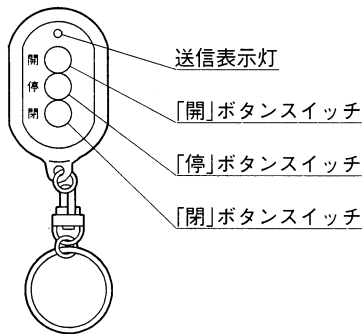
■レベルスペーサーを抜きます。

■以上で独立仕様ブラケット(オプション)の施工は終了です。ここからは、12ページに戻り、作業を行なって下さい。

21.使用方法

21-1 リモコン送信器での操作方法

リモコン送信器の押ボタンスイッチを押して引戸を開閉して下さい。



リモコン送信器

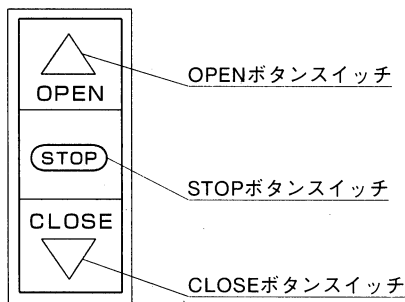
- 1 「開」ボタンスイッチを押すと送信表示灯が点灯し引戸が開きます。
- 2 「停」ボタンスイッチを押すと送信表示灯が点灯し引戸が停止します。
- 3 「閉」ボタンスイッチを押すと送信表示灯が点灯し引戸が閉じます。

<注意>

- リモコン送信器の実用到達距離は約15mなのでその範囲内で操作をして下さい。

21-2 電動ユニット押ボタンスイッチでの操作方法

電動ユニットに付いている押ボタンスイッチを押して引戸を開閉して下さい。

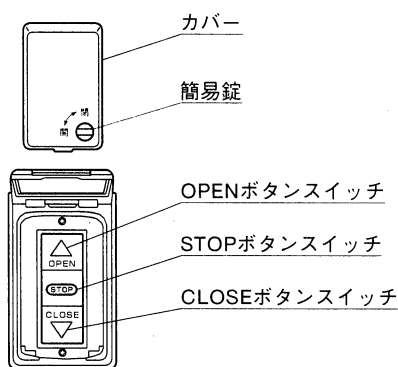


押ボタンスイッチ

- 1 OPENボタンスイッチを押すと引戸が開きます。
- 2 STOPボタンスイッチを押すと引戸が停止します。
- 3 CLOSEボタンスイッチを押すと引戸が閉じます。

21-3 外部押ボタンスイッチでの操作方法(オプション)

道路側に付ける外部押ボタンスイッチを押して引戸を開閉して下さい。



外部押ボタンスイッチ

- 1 簡易錠をコイン等で開位置(溝が水平)まで回してカバーを開けます。
- 2 OPENボタンスイッチを押すと引戸が開きます。
- 3 STOPボタンスイッチを押すと引戸が停止します。
- 4 CLOSEボタンスイッチを押すと引戸が閉じます。
- 5 カバーを閉め、簡易錠をコイン等で閉位置(溝が垂直)まで回し施錠します。

21-4 電動と手動の切替え

この電動装置は、通電時(AC100V)には任意の引戸停止位置でモーターによるロックが働く構造になっています。施工調整時、故障時、非常時に開閉したい場合は、コントロールボックスの電源スイッチをOFFにし、手動開閉で行なって下さい。

(非常時、災害時、停電時を考慮し、電源OFFで手動となる新機構を採用しています。)

<注意>

- 長期間電源供給をストップした状態で引戸に施錠したい場合は、別途施錠対策を現場にて対応して頂く事になりますのでご注意下さい。

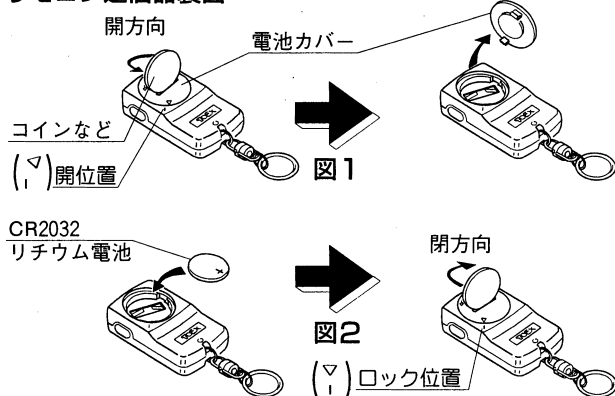
22. リモコンについて

■リモコン送信器の実用到達距離は約15mなのでその範囲内で操作をして下さい。

22-1 電池の入れ方

送信器はコイン型リチウム電池(CR2032)を1個使用します。出荷時、電池は部品として本体と同梱されています。

リモコン送信器表面



❶送信器裏側、カバーの溝にコイン等を差し込み、矢印方向に回して電池カバーを外します。(図1参照)

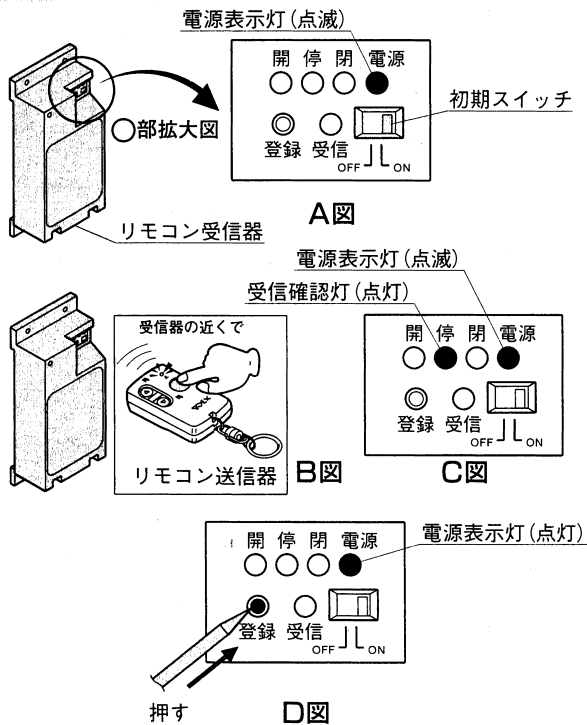
❷電池は「+マーク」が見える向き(上側)ではめ込みます。(図2参照)

❸電池カバーを、外した位置で差し込み、コイン等で矢印方向(時計方向)に回して閉めます。(図2参照)

<注意>

●「マーク」を合わせます。「締め忘れ」に注意してください。(図2「ロック位置マーク」参照)

22-2 登録方法



❶電動ユニットのコントロールカバーをはずします。

❷リモコン受信器の初期スイッチを「ON」側にして、電源表示灯(緑色)を点滅させます。点滅しない場合は、初期スイッチを一度「OFF」にして、もう一度「ON」側にします。(A図参照)

❸リモコン送信器の「停止」ボタンを、受信器近くで押して登録します。受信確認灯「停」が赤色点灯し送信器登録が完了します。(B, C図参照)

❹リモコン送信器の登録操作後、受信器の「登録スイッチ」をボールペンの先などで押して登録、または電源表示灯の点滅が「点灯」に変わるまで待ちます。「点灯」表示で受信器登録が完了します。(D図参照)

❺はずしたコントロールカバーを取付けます。ネジの締め忘れのないように注意して下さい。

<注意>

●受信器への登録は、必ず電源表示が「点滅している1分間」に操作して下さい。

●登録スイッチを強く押しすぎないで下さい。スイッチの故障の原因になります。

22-3 追加登録方法

❶リモコン受信器の登録スイッチをボールペンの先端などで押して電源表示灯を点滅させます。(D図参照)

❷「22-2 登録方法」の❸, ❹の操作をして下さい。

●リモコン受信器1台でリモコン送信器16台まで登録できます。

●複数のリモコン送信器をご使用になる場合は、別売り品のリモコン送信器セット(KYZ73)をお求め頂き上記手順でセットして下さい。

<注意>

●「リモコン登録抹消」以外の目的で、初期スイッチを「OFF」にした場合、登録している送信器はすべて操作できなくなります。

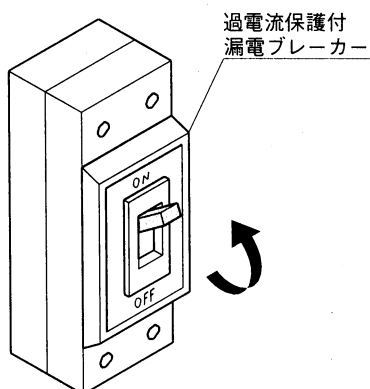
22. つづき

22-4 登録取り消し方法

- ①すべての登録を取り消す場合は、リモコン受信器の初期スイッチを「OFF」側にします。

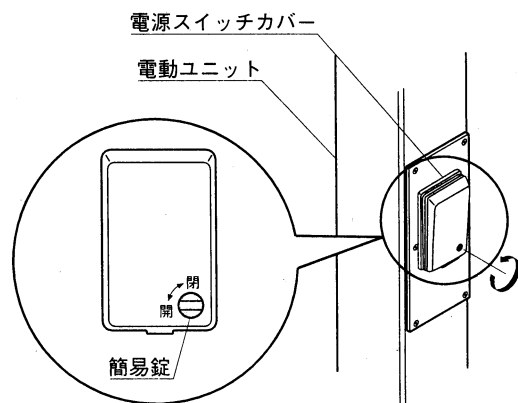
23. 施工の確認(最終)

23-1 電源の投入



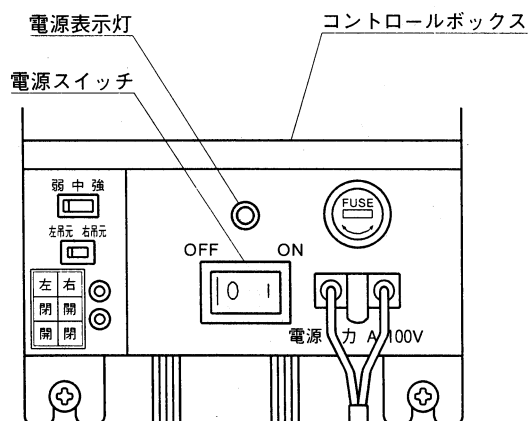
A図

- ①家側または、電動ユニット内に設置した過電流保護付漏電ブレーカーを「ON」にします。
(A図参照)



B図

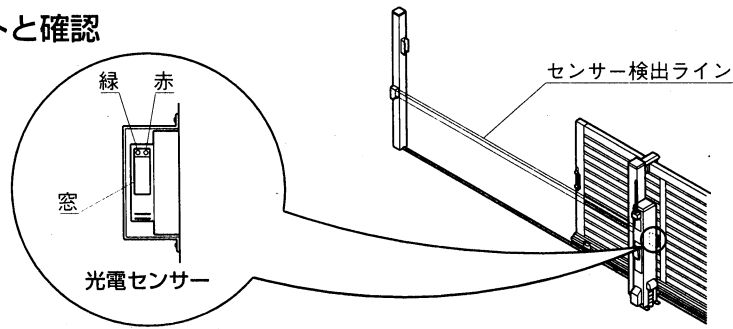
- ②電動ユニットの電源スイッチカバー簡易錠をコイン等で開位置(溝が水平)まで回しカバーをあけます。
(B図参照)



C図

- ③コントロールボックスの電源スイッチを「ON」にし、電源表示灯が点灯(緑)している事を確認します。
(C図参照)
- ④全ての調整、確認が終了したら電源スイッチカバーを閉めます。

23-2 作動テストと確認



<注意>

- センサーを確認する際は、センサー検出ラインに入らない位置で確認して下さい。

項目	テストと正常作動	異常と対応処置
供給電源の確認	<ul style="list-style-type: none"> ◎ コントロールボックスの電源表示を確認 ✕ 電源表示灯が点灯(緑)している 	<ul style="list-style-type: none"> ✕ 点灯(緑)しない ◎ 配線の確認(14~15ページ参照)
センサー作動の確認	<ul style="list-style-type: none"> ◎ センサー検出ラインに入らない位置からセンサー本体窓を見て確認 ✕ 障害物無し→緑色灯が点灯 ◎ センサー検出ラインへ手を入れて確認 ✕ 障害物有り→赤色灯が点灯 ◎ センサー検出ラインから手を除いて確認 ✕ 障害物無し→赤色灯が消灯 	<ul style="list-style-type: none"> ✕ 点灯, 消灯しない ◎ センサー取付けの確認(10ページ参照) ◎ 配線の確認(15ページ参照)
リモコンおよび各押ボタンスイッチの作動確認	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 押ボタンスイッチ「開」, 「停」, 「閉」を押して確認 ✕ 動作方向が一致している ✕ 全開, 全閉位置で停止する ✕ 動作中、振動・異音がない 	<ul style="list-style-type: none"> ✕ 反対に作動する ◎ 左右吊元切替スイッチの確認(16ページ参照) ✕ 作動しない ◎ リモコンアンテナの確認(12ページ参照) ◎ 配線の確認(15ページ参照) ◎ リモコン使用範囲の確認(21ページ参照) ◎ リモコン登録の確認(21ページ参照) ✕ 手前で停止またはオーバーする ◎ マグネットスイッチの確認(17ページ参照) ✕ 振動・異音がある ◎ 引戸, ガイドローラーの確認(7, 13ページ参照) ◎ 電動ユニットの確認(11, 13ページ参照) ◎ 脱輪防止金具の確認(12ページ参照)
電動ユニット機能の作動確認	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 引戸動作中の確認 ✕ センサー検出ラインに立つと停止する ✕ 開閉動作中に負荷をかけると停止する ◎ 引戸停止中の確認 ✕ ロックされている ◎ コントロールボックスの電源スイッチをOFFにして確認 ✕ 手動開閉できる 	<ul style="list-style-type: none"> ✕ 停止しない ◎ センサー取付けの確認(10ページ参照) ◎ 配線の確認(15ページ参照) ✕ 動作中すぐ停止する ◎ 過負荷検出強さ切替スイッチを「中」, 「強」にし再確認(16ページ参照) ✕ ロックされない ◎ 配線およびコネクタ類を脱着し再確認(15ページ参照) ◎ 供給電源の確認(14~15ページ参照) ✕ 開閉できない ◎ 施工の再確認(13ページ参照)

◎…確認マーク ✕…動作マーク

■以上で施工は終了です。ご使用いただきましてありがとうございます。

24.仕様

電 源	AC100V 50/60Hz
消 費 電 力	約50W
モーター定格出力	10W
周 囲 温 度	-10℃~50℃
開 閉 速 度	18cm/秒(50Hz) 22cm/秒(60Hz)
リモコン到達距離	見通し距離 約15m
操 作 方 法	リモコン・押ボタンスイッチ